

大阪と 自然科学

ミュージアム
連続講座
2022

全3回

本年のミュージアム連続講座は「大阪と自然科学」をテーマに開催します。大阪は食・商い・笑いなどのさまざまな文化を生み、育んできました。また、自然科学の分野においても大阪は、優秀な科学者が集まり国内外の自然科学をリードし発展させました。例えば大阪市立大学には、2023年にいずれも生誕100年となる小田稔(電波天文学)、早川幸男(素粒子・宇宙船物理学)、市川浩一郎(地質学)などの新進気鋭の科学者が集まり、その後、各分野を大きく発展させました。今回のミュージアム連続講座では、この大阪と自然科学にまつわる話を中心にお届けします。

日程：2023年3月5日(日)・12日(日)・19日(日)

時間：14:00～16:30(13:30開場)

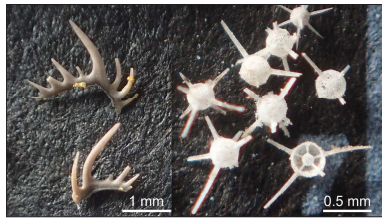
定員：50名 参加費：無料

会場：大阪市立難波市民学習センター 講堂

申込方法：裏面をご参照のうえ、事前にお申込みください。
※3回通しのお申込みになります。

申込締切：2023年2月21日(火)

大阪と自然科学



コノドントの採餌器官と放散虫の化石

第1回

2023
3/5
日曜日



大阪の夜景と都市で生活するハエ

1 「コノドントと放散虫
—日本列島の地史を明らかにした微化石—
前川 匠 大阪市立自然史博物館 学芸員

市川浩一郎博士を中心とした研究グループは、1970-80年代にコノドントや放散虫などの微化石を用いて日本列島の地層の形成年代を明らかにしました。その成果は放散虫革命と呼ばれる列島の形成史観の転換につながりました。本講演では、現在も地層の年代決定や対比に活用されている微化石についてお話します。

2 「大阪での昆虫学研究」
後藤 慎介 大阪公立大学
大学院理学研究科
生物学専攻 教授

昆虫学研究は世界中の研究者によって行われてきました。もちろんの中には大阪にゆかりのある研究者もいます。本講演では①昆虫の生きざまを明らかにしてきた大阪にゆかりのある研究者とその業績、②大阪で行われた昆虫学の成果、③私たちが明らかにした「大阪の夜の明るさが昆虫に及ぼす影響」について紹介します。

申し込み方法 締切: 2023年2月21日(火)

インターネットからの申し込み

大阪市生涯学習情報提供システム「いちょうネット」(<https://www.manabi.city.osaka.lg.jp/>)から、「講座・イベント」を選択し、キーワード欄に「ミュージアム連続講座」と入力・検索のうえ、お申し込みください。

センターへ来館しての申し込み

返用はがき、もしくは、はがき代63円をご持参のうえ、センター窓口にてお申し込みください。開館時間 9:30~21:30 (日曜・祝日17:00)・(休館日:毎月第1・3水曜日、年末年始)

往復はがきでの申し込み

名前、住所、電話番号、返信用宛名面をご記入のうえ、難波市民学習センター「ミュージアム連続講座」係までご応募ください。(※2023年2月21日(火)必着)

会場: 大阪市立 難波市民学習センター 講堂

〒556-0017 大阪市浪速区
湊町1丁目4番1号 OCATビル4階
<https://osakademanabu.com/namba/>



●Osaka Metro (旧:市営地下鉄)各線「なんば駅」、南海電車「難波駅」、近鉄・阪神電車「大阪難波駅」よりなんばウォーク・OCATウォークを西へ。「OCAT」JR線の表示に沿ってお越しください。●JR「JR難波駅」すぐ。●大阪シティバス (旧:市バス)「JR難波駅前」下車すぐ。

問い合わせ先: 大阪市立難波市民学習センター

TEL: 06-6643-7010

〈個人情報の取り扱いについて〉
■ご記入いただきました個人情報は、講座ご参加の確認や、講座に関するご連絡のためにのみ使用し、お申込みをもって使用に同意されたものとさせていただきます。■主催者: 大阪市教育委員会 ■ご記入いただきました個人情報は、講座の開催・運営に必要な範囲 (上記利用目的の範囲) において、個人情報の全部または一部を預託・共同利用する場合があります。(共同利用者の範囲: 大阪教育文化振興財団・SPS 共同事業体 (指定管理者)、事業体構成団体: ①一般財団法人大阪教育文化振興財団 ②サントリーパブリシティサービス株式会社) ■個人情報の取扱い、苦情及びご相談に関するお問い合わせ先: 個人情報保護管理者代理人 一般財団法人大阪教育文化振興財団 総務課長 宛 Tel: 06-4963-2527 (月~金 10:00~17:00)

〈講座の開催中止について〉
「大阪市域」に「暴風警報」または「特別警報」が午前11時の時点で発令されている場合、もしくは地震等で大阪環状線とOsaka Metroの双方が運行を停止した場合、講座は中止とさせていただきます。詳しくはセンターまでお問い合わせください。

〈コロナウイルス感染症防止対策について〉
新型コロナウイルス感染症予防対策の一環と致しまして、以下にご協力ください。
1. 会場入場時にアルコール消毒等手洗いに協力ください
2. マスクを着用してご参加ください
3. 当日、発熱や風邪のような症状のある方につきましては参加をお控えください
新型コロナウイルス感染症拡大状況によりましては、本講座を中止または延期とさせていただきます場合がございます。あらかじめご了承ください。



大正時代の中之島(『大阪市パノラマ地図』(1923年)より)

第2回

2023
3/12
日曜日



宇宙線望遠鏡施設

1 「アインシュタインと大阪」
上羽 貴大 大阪市立科学館
学芸員

物理学者アルバート・アインシュタイン(1879-1955)がノーベル賞を受賞したのは、日本旅行へ向かう航路の途中のことでした。大正8年の日本は、ノーベル賞受賞者の来日を熱狂的に歓迎しました。アインシュタインの見た大阪の景色は、どのようなものだったのでしょうか。そして、彼の偉大な業績は、科学の世界をどのように変えたのでしょうか。

2 「宇宙研究と大阪」
常定 芳基 大阪公立大学
大学院理学研究科
物理学専攻 教授

宇宙は太古の昔より人類の強い興味の対象であり続けてきました。伝統的な天文学ではもっぱら人間の目を通して宇宙を観測してきましたが、20世紀以降の物理学の目覚ましい進歩は観測装置の飛躍的発展をもたらし、理論の精密化も進みました。在阪の研究者による大きな貢献もあった宇宙研究の歴史と現在を概観します。



ワードクラウドによる大阪の人々

第3回

2023
3/19
日曜日



湯川(前列左から2人目)と南部(後列右端) 1950年8月22日於京都大学 写真・京都大学基礎物理学研究所所蔵

1 「人名分布と大阪」
水口 毅 大阪公立大学
大学院理学研究科
物理学専攻 准教授

日本人の名前とは実に多様なもので、その種類は十万を超るとも言われています。その中には田中・山本・中村のようにありふれたものもあれば、一度も聞いたことがない希少そうなものもあります。実は、この様々な種類の名前の多寡には数理的な法則があることが知られています。本講演ではこの法則を解説し、人名の分布から見た大阪の特徴を紹介します。

2 「大阪大学理学部と大阪市立大学工学部の創設」
斎藤 吉彦 大阪市立科学館 館長

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹と南部陽一郎が最初に職を得たのが、創設時の大阪大学理学部(1931年)と大阪市立大学工学部(1949年)です。それぞれが科学の新たな歴史を切り開く偉業を成していますが、その背景をかつて日本一の工業都市であった「大大阪」と科学の歴史を概観しながら考えます。